発掘調査の概要

平城京左京三条一坊一坪の調査（平城第522次）

平城京左京三条一坊一坪は、平城宮朱雀門の東南すぐに位置します。ここに国土交通省による平城宮跡展示館の建設が計画され、事前調査として奈良文化財研究所が2010年度より継続的に発掘調査をおこなっています。

これまでの調査により、この坪は、平城京遷都前後のわずかな期間を除き、構造物があまり存在しない広場的な空間として利用されていたことが判明しています。今回の調査は、一連の調査の最後のものとして、坪の東端に近い箇所に東西21m×南北93mの調査区を設定しておこないました。

調査区北端から遺構検出を始め、南へと作業を進めていったところ、調査区北部では数棟の建物跡が見つかりました。しかし、北側三分の一を過ぎると、顕著な遺構がほとんど認められなくなりました。構造物が少ない広場的空間という坪の様相が、改めて確かめられたのです。

遺構の乏しさが既往の知見を裏づける成果になるとは楽な調査だ、と思われるかもしれません。しかし、実際は、地面を睨みつけては神経ばかりをすり減らす調査でした。遺構が《ある》ことより、《ない》ことを証明する方が難しいものです。もしも、何か重要な遺構を見落としていたら――調査中はそんな恐怖におののく日々だった、とは少し大袈裟すぎるでしょうか。

もちろん調査には万全を期しており、この坪の遺構密度が低いことは疑いありません。官人の宅地としての性格を基本とする平城京で、坪全体を広場として確保する事例は珍しいものです。一連の調査により、平城京における土地利用の多様さの一端があきらかとなりました。　　（都城発掘調査部　山本 祥隆）

調査区全景（北から）